



## 津田拓也がJSB1000初ポールポジションを獲得! 43週の長丁場で争われる100mileレースを制するのは!?

**JSB 1000**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW

**SUGO SUPERBIKE 100 MILES**  
ENDURANCE RACE

シリーズ後半戦のスタートとなるSUGOラウンド。JSB1000クラスは、100マイルレースというセミ耐久で行われる。スポーツランドSUGOを43周で争われ、ライダーは、1名でも2名でも可能であり、2名の場合でも、それぞれにフルポイントがつくことになる。また、ピットインは、最低1回が義務化され、15秒間はピットにとどまらなければならないという特別ルールが施行される。ガソリン補給、タイヤ交換は可能だが、電動・エアツールの使用は禁止されているため、15秒以上時間がかかるのは必至。この辺りは、チームとしてのポテンシャルも勝敗を左右する一つのファクターとなる。スタート方式は、耐久レースらしくライダーがマシンに駆け寄るル・マン式で行われる。

2名でエントリーしているのは、ヤマハYSレーシングチームの中須賀克行と吉川和多留、Team KAGAYAMAの加賀山就臣と武田雄一、TEAM GREENの渡辺一樹と高橋英倫、F☆Sヒノマル食堂GTRIBEの新庄雅浩と戸田隆、RS-ガレージハラダ姫路の原田洋孝と長谷川直樹、ホンダドリーム高崎B'WISER・Tの清水郁己と桜井賢一、そしてTOHO Racing with MORIWAKIからは、山口辰也と地元期待の伊藤真一が名を連ねた。

JSB1000クラスは、今回のSUGOラウンドを含め、残り3戦4レースでシリーズタイトルが決まる。現在、ポイントランキングでは、高橋巧が78ポイント

でトップ。2ポイント差で柳川明、6ポイント差で秋吉耕佑と続いているが、秋吉は、第4戦筑波の予選で転倒し負傷。今回の復帰を目標にリハビリを続けてきたが、残念ながら欠場を決めている。ディフェンディングチャンピオンの中須賀は、前戦で悔しいマシントラブルでのノーポイントが響き、トップから17ポイント差の暫定ランク6番手となっているだけに、連覇を狙うためにも1戦も落とせない戦いとなる。中須賀自身「残りは全て勝つつもりで臨みます」と気合いを入れている。

公式予選は、1時間の計時予選で行われ、2名ライダーがいるチームは、1台のマシンを交互にライディングした。セッション序盤は、加賀山が1分28秒378をマークしトップに立っていたが、セッション終盤にタイムを上げた津田が、ただ一人1分27秒台に入れる1分27秒974をマークしJSB1000クラスでは、初めてとなるポールポジションを獲得した。「鈴鹿以外は、JSB1000で走るのは初めてのサーキットなのですが、中でもSUGOは、前から苦手なんです。そんなボクをチームが強力にバックアップしてくれました。事前テストを一日増やしてくれたり、レースウィークに入っても、監督がコースで走りをチェックしてくれたり…。チームの総合力で獲ったポールポジションだと思います」と津田。

テストから調子がよかったという中須賀は、「できればポールを獲得したかったけれど、今日は津田

選手が速かったということ。決勝で借りを返せるようにしたいですね」と気持ちを切り換えていた。3番手の高橋は、「テストまでは、一発もアベレージタイムも悪かったので、予選で28秒2まで出てよかったですね。SUGOでは勝ったことがないですし、今年、勝っていないので、長丁場をしっかり走り切って最終的に勝てるようにしたいですね」と静かな闘志を燃やす。

SUGOを43周というのは体力的に相当厳しいレースとなる。実際、昨年のスプリントレースは、24周で争われたが、厳しい暑さの中をハイペースで走るためレース後は、トレーニングしているトップライダーでさえ疲労困憊となっていた。その倍近い周回数で争われるだけに1人で走るライダーは、ペース配分を考えながら走らなければならないだろう。逆に2人で走るライダーは、レース序盤から全開で走ることができるが、2人のラップタイムに差があるチームは、状況によって作戦を見直さなくてはいけなくなる。急ぎょ1人で走る可能性もあるということだ。ピットインのタイミングを始め、タイヤ交換、そしてチームの総合力を含む戦略が勝利を引き寄せることになる。全日本格式ではSUGO初となる100マイルレース。長丁場の戦いを制するのは、果たして!?

(佐藤寿宏)





中須賀寛行はセカンドポジションからのスタート



3番手スタートの高橋 巧



ISB 1000  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

ポールポジション:  
#12 津田拓也 1'27.974

『正直言ってボク自身は、テストからレースウィークの金曜日までの流れがよくなって、手応えもあまりなかったのですが、チームが真剣に取り組んでくれて、チーム総動員で予選を戦ったことで、流れが一気によくなりました。チームに押し上げてもらったという感じです。本当にチームやスズキのスタッフに感謝したいです。ボクは鈴鹿以外のコースをJSB1000で走ったことがないので、セットアップだけではなく、走り込むことが、まだまだ必要なので(タイムを出した周は)アタックというより、走り方を変えながら、一番よかったことを組み合わせで走った感じでした。SUGOは苦手なコースなのですが、それを克服して、いつも以上に真剣に取り組んで、もっと強くならなくてはダメだと思っています。決勝はどういう展開になるかまったく分からないので、全力でいっしょに言えませんが、周りの出方を見ながら勉強させてもらおうと思っています。チーム自体は8耐をメインとしていて、今年の8耐ではチームのエースライダーとして迎えてもらったのですが、まだまだ力不足だと感じたので、来年はエースライダーだと胸を張って言えるように、全日本の一戦一戦を戦っていききたい。優勝を目指すことは、もちろんですが、自分のスキルアップを目標に頑張っていきたいと思います』

J-GP2  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW

激しい争いを制した長島哲太がP.P.  
「今回はしっかり結果につなげたい」



セッションの序盤、まずは野左根航太が1分32秒403でリーダーボードのトップに立った。デチャ・クライサー、高橋英倫、中本翔らが続く。中盤にかけて長島哲太がタイムを大きく更新。31秒779で2番手まで上げてきた。野左根も31秒642まで上げており、トップは変わらない。しかし、その後デチャが31秒512をマーク、一気にトップを奪った。しかし、野左根は31秒474まで上げて再びトップに立ってピットイン、終盤のアタックに備える。

セッション後半に始まったタイムアタック、その中でデチャが31秒196とベストを更新してトップをキープ。野左根が31秒360、長島も31秒652とタイムアップするものの、順位はそのまま。しかし、最後の最後に長島が31秒179をマーク、激しい予選アタックを逆転で制した。デチャは2番手、3番手にはチェッカー周回で大きくタイムアップした浦本 修充が入った。

ポールポジション:#45 長島 哲太 1'31.179

『ひと言で言うと、まだまだだなんて感じます。予選序盤でセットを詰めて、最後にタイムを出すというのは狙い通りでしたが、ミスやセットアップがしっかりできていない部分があり、自分が目標としていたタイムに届かなかったのは悔しい。でも決勝に向けて変更するべき部分はわかったので、そこはポジティブに考えています。』J-GP2に乗り換えてから、まだ決勝で結果が残っていないのですが、SUGOは得意なコースのひとつなので、自分のレースをして、いい展開に持ち込めれば勝つチャンスはあると思います。これまで決勝で失敗することが多かったので、今回は気を引き締めて、しっかり結果につなげたいですね。このクラスはタイムが僅差で、逃げるレースは厳しいと思うので、バトルになると思いますが、最後には前に出て勝てるように頑張ります』





**ST 600**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW

## 渡辺一馬がレコードでポールポジション! 「勝ち方にこだわったレースをしたい」



序盤は伊藤勇樹が早々に1分32秒083でモニターのトップに立つ。井筒仁康、稲垣誠、篠崎佐助らが上位を占める。中盤、遅れてコースインした渡辺一馬も32秒台で3番手に食い込み、ART走行で2番手タイムだった中富伸一もアウトラップを終えてタイムアタック、31秒698へ入れて一気にトップに立った。しかし、渡辺はその後各セクションでトップタイムをマーク、31秒728、31秒501と周回毎にタイムアップしてトップに立つ。

レコードタイムのブレイクが期待された渡辺は、次の周回で31秒149をマークしてトップの位置を不動とした。セッション終盤には現レコードホルダーの岩崎哲朗、ポイントリーダーでSUGOをホームコースとする横江竜司がタイムアップしてくるが、トップ2の変動はなく、2番手は中富、3番手が伊藤、セカンドロウには4番手岩崎、井筒、横江と続いた。



### ポールポジション:#6 渡辺一馬 1'31.149

『(前に走った)J-GP3のタイムを見て、コンディションはそこそこ、いい状態だと思ったのですが、走り出してみたらシケイン進入に川が残っていて、路面コンディションは完璧ではなかったですね。それでもコースレコード更新してポールポジションを取ることができたので、この結果を素直に喜びたいと思います。予選の序盤は集団に入ってしまう、ベストタイムを出した8周目には、タイヤのおいしいところ使い切っていたので、もうちょっとタイムを出せればはずですが、30秒台に入りたいと思っていたので、目標タイムをクリアできなかったのは悔しいですね。勝てるポテンシャルはあるのに前半戦は決勝で結果に結びつけられず焦りもありましたが、筑波で勝つことができて、そのプレッシャーから解放されたので、今回は勝ち方にもこだわったレースをしたいですね。最初からレースを引っ張っていきけるように精一杯走ります』

**J-GP3**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW

## 山田誓己が予選を制してポールポジション 『決勝は最後にトップチェッカーを受けたい』



土曜日最初のJ-GP3クラスの公式予選が始まる頃には、朝方の雨で僅かに濡れた路面が残るものの、ライン上はほぼドライとなった。そのため当初はタイムが上がらなかったが、セッションも終盤に差しかかるころ、ポイントリーダーの山田誓己、國峰啄磨、大久保光らがタイムアップする。その中で國峰が1分36秒台をマークしてトップに立つと、直後に山本剛大が36秒台に入れ、続けて35秒963とさらに更新してトップを奪う。上位陣も続々とタイムアップしてくる。

40分のセッションも終盤に入る残り4分、山田も立て続けに35秒台を連発。35秒582までタイムを上げて、山本を逆転して再びトップに立った。その後、國峰が35秒620までタイムを更新して山田に迫るものの、最終的に山田がポールポジションを獲得した。



### ポールポジション:#3 山田誓己 1'35.582

『予選は難しかったですね。始めは、ところどころウェットパッチが残っていて、周回していくうちに、だんだんドライになっていったので早めにスリックタイヤに替えて、慣れるために多く周回しました。前日の走行では1本目のコンディションが悪くて、2本目も雨が降ったりで、なかなか走行時間がとれなかったりセットアップがうまく進んでいなかったのですが、予選でほしい決まってきたので、ウォームアップ走行で確認して、決勝に挑みたいと思います。自分にはアドバンテージは全くないし、エンジンもそんなに走っているわけじゃないので、いかにコーナーでカバーするかを考えて攻めている状態です。決勝は、できれば逃げ切りしたいですが、予選結果を見ても抜け出すのは難しいと思うので、レース展開うまく考えて、最終的にはトップでチェッカー受けられるように頑張ります』



## Asia Cup of Road Racing 2013年度アジア国別対抗ロードレース

今年で7年目を迎えるアジア国別対抗ロードレース「FIMアジアカップ・オブ・ロードレース」。2013年度シーズンもSUGOで第1戦が開催される。FIMアジアの加盟国を代表するライダーが参戦し、今大会には9人の日本人代表ライダーが名を連ねている。全車がYAMAHA YZF-R15+ダンロップタイヤのワンメイクレースだ。

決勝は土日の2レース制で、土曜日の決勝レース1は、上位7台による混戦で櫻井芽依(写真)が逆転優勝。日曜日のレース2も激しく順位の入替わる混戦となるだろう。

Pos	No	Rider	Team	Race Time
1	2	Mei SAKURAI	TEAM MFJ JAPAN	19'08.366
2	11	Ai OGURA	TEAM MFJ JAPAN EX	19'08.545
3	1	Anupab SARMOON	TEAM FMSCT THAILAND	19'08.557
4	12	Yuuto SANO	TEAM MFJ JAPAN EX	19'08.570
5	13	Natsumi MIYOSHI	TEAM MFJ JAPAN EX	19'08.639
6	14	Yuta DATE	TEAM MFJ JAPAN EX	19'08.657
7	9	Yuki WATABE	TEAM MFJ JAPAN EX	19'08.679
8	10	Kastuki SATORI	TEAM MFJ JAPAN EX	19'30.885
9	15	Reina SHIRAIISHI	TEAM MFJ JAPAN EX	19'30.888
10	3	Jagan KUMAR	TEAM FMSCI INDIA	19'30.957
11	4	SONG Dae-Chan	TEAM KMF KOREA	19'31.678
12	5	Chi Chan CHEN	TEAM CTMSA CHINESE TAIPEI	20'23.121





●予選:天候/晴 路面/ドライ  
●決勝スタート/13:55(43周-160km)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	12	津田 拓也	ヨシムラスズレーシングチーム	GSX-R1000L3	1'27.974
2	1	中須賀 克行※ 吉川 和多留	ヤマハYSPLレーシングチーム	YZF-R1	1'28.152
3	634	高橋 巧	MuSASHiRTハルク・プロ	CBR1000RR	1'28.258
4	71	加賀山 就臣※ 武田 雄一	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	1'28.378
5	87	柳川 明	TEAM GREEN	ZX-10R	1'28.567
6	50	渡辺 一樹※ 高橋 英倫	TEAM GREEN	ZX-10R	1'29.212
7	104	山口 辰也※ 伊藤 真一	TOHORacingwithMORIWAKI	CBR1000RR	1'29.370
8	33	藤田 拓哉	DOG FIGHT RACING・YAMAHA	YZF-R1	1'29.789
9	18	中村 知雅	チームトモマサ	CBR1000RR	1'31.304
10	6	須貝 義行	チームスガイレレーシングジャパン	1199PanigaleS	1'31.602
11	21	久保山 正朗	Honda浜友会浜松エスカルゴ	CBR1000RR	1'31.637
12	22	清水 都巳※ 桜井 賢一	ホンダドリーム高崎B'WISER・T	CBR1000RR	1'31.662
13	16	吉田 光弘	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	1'31.769
14	19	新庄 雅浩※ 戸田 隆	F☆SHiノマル食堂GTRIBE	S1000RR	1'32.292
15	34	井上 健志	炎R	CBR1000RR	1'32.505
16	23	原田 洋孝※ 長谷川 直樹	RS-ガレージハラダ姫路	ZX-10R	1'32.754
17	29	山中 正之	HondaQCT明和レーシング	CBR1000RR	1'33.615
18	83	中沢 孝之	DOG FIGHT RACING YAMAHA	YZF-R1	1'33.773
19	89	掛江 裕二	TEAM☆STRADA	F4-1000RR	1'35.634

----- 以上予選通過 -----

参加台数:19台 出走台数:19台

予選通過基準タイム (115%) 1'41.347

※印はベストタイムをマークしたライダー



●予選:天候/晴 路面/ウェット  
●決勝スタート/12:45(20周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	6	渡辺 一馬	KoharaRacing	CBR600RR	1'31.149R
2	2	中富 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R6	1'31.698
3	76	伊藤 勇樹	PETRONAS・HLYM	YZF-R6	1'32.083
4	14	岩崎 哲朗	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'32.175
5	77	井筒 仁康	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'32.234
6	11	横江 竜司	RT 森のくまな佐藤塾	YZF-R6	1'32.674
7	21	篠崎 佐助	SP忠男レーシングチーム	YZF-R6	1'32.751
8	16	國川 浩道	赤い3輪車レーシングチーム	CBR600RR	1'32.764
9	71	小山 知良	CLUB PLUSONE with T.Pro	CBR600RR	1'32.856
10	23	近藤 湧也	GBSレーシング	YZF-R6	1'32.998
11	634	亀谷 長純	MuSASHiRTハルク・プロ	CBR600RR	1'33.019
12	45	高橋 誠	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'33.109
13	9	稲垣 颯	AKENO SPEED・MIC	YZF-R6	1'33.444
14	24	日浦 大治朗	HONDA 鈴鹿レーシングチーム	CBR600RR	1'33.590
15	50	松川 泰宏	MOTO BUM+SAI	CBR600RR	1'33.629
16	26	中津原 尚宏	研友会栃木PGR+ATS	CBR600RR	1'33.700
17	55	瀧美 心	テルル&EM★KoharaRT	CBR600RR	1'34.028
18	56	梶田 博文	Gltrax RSR三浦ポンプセンター	YZF-R6	1'34.066
19	18	中山 真太郎	TEAMしんたろうwithKRT	CBR600RR	1'34.239
20	48	中本 貴也	SP忠男レーシングチーム	YZF-R6	1'34.477
21	37	阿久津 晃輝	FRS+日光+HOUYOU	YZF-R6	1'34.540
22	58	熊谷 陽	PLIME-MC★LINK	YZF-R6	1'34.910
23	43	長嶋 修一	石井りんご園モトルファ	CBR600RR	1'35.089
24	57	奥野 翼	PITCREW&松戸FLASH	ZX-6R	1'35.092
25	68	森 正和	田口興産レーシングチーム	DAYTONA675	1'35.393
26	62	飯島 高広	中村エンジン研究所	YZF-R6	1'35.667
27	46	小倉 章太郎	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R6	1'35.991
28	60	遠藤 恵太	研友会栃木PGLレーシング	CBR600RR	1'36.102
29	52	中山 友寛	MCRガレージオレンジワークス	CBR600RR	1'36.329
30	75	関 一正	club Tribe	YZF-R6	1'37.249

----- 以上予選通過 -----

参加台数:30台 出走台数:30台

予選通過基準タイム (110%) 1'40.264

※ Rマークは、コースレコード(従来のタイム 1'31.487)



●予選:天候/曇 路面/ウェット  
●決勝スタート/10:25(20周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	3	山田 誓己	TEAM PLUSONE & ENDURANCE	NSF250R	1'35.582
2	55	y 國峰 喙磨	Projectu7C HARC	TSR3	1'35.620
3	5	山本 剛大	Team NOBBY	M312	1'35.963
4	78	大久保 光	HotRacing	NSF250	1'35.975
5	14	y 長尾 健吾	TEAMけんけんwithアポロ	NSF250R	1'36.880
6	29	澁田 農央	ウイダー チームアイファクトリー	NSF250R	1'36.929
7	32	y 北見 剣	ウイダー チームアイファクトリー	NSF250R	1'36.937
8	22	安村 武志	犬の乳酸菌.jp/プリミティブRT	PRCS3	1'37.027
9	88	y 水野 涼	CLUB HARC-PRO.	NSF250R	1'37.121
10	21	大西 隼	Projectu7C HARC	NSF250	1'37.122
11	41	宇井 陽一	41Planning.IODARacingJapan	IODA	1'37.326
12	1	徳留 真紀	Tome team PLUSONE	TSR3	1'37.379
13	25	小室 旭	テルル&EM★KoharaRT	NSF250R	1'37.386
14	65	TROY GUENTHER	チームヨシナル&K1Racing	NSF250R	1'37.600
15	67	y 鳥羽 海渡	TEAM TEC2 & TDA	TEC2-12	1'37.639
16	33	y 山元 聖	Projectu7C HARC	NSF250R	1'37.651
17	83	y 栗原 佳祐	CLUB HARC-PRO.	NSF250R	1'37.873
18	73	Denny Triyugo	Astra Motor Racing Team	NSF250R	1'37.895
19	24	古市 右京	TEAM ASPIRATION	NSF250R	1'38.354
20	37	石崎 司也	TEAM TEC2 & TDA	TEC2-12	1'38.359
21	34	y 関野 海斗	Projectu7C HARC	NSF250R	1'38.412
22	35	y 吉広 光	CLUBNEXT&MOTOBUM	NSF250R	1'38.429
23	31	岡崎 静夏	KoharaRacing	NSF250R	1'38.560
24	9	菊池 寛幸	KoharaRacing	NSF250R	1'38.691
25	26	高杉 泰緒子	モトムムwithヒポボタマス	NSF250R	1'38.738
26	36	y 大塚 和人	18 GARAGE RACING TEAM	NSF250R	1'38.742
27	13	y 佐野 優人	SRSJwithMORIWAKI	MD250GP3	1'38.857
28	43	畑中 要	FTR・タイヤナビ・遠藤住宅機	NSF250R	1'38.970
29	57	内海 祐一	RACINGライドスポーツ	NSF250R	1'39.220
30	28	三好 菜摘	オールスターモータースポーツ	NSF250R	1'39.308
31	99	佐藤 正之	CLUB NEXT	NSF250R	1'39.562
32	93	赤澤 隆生	TEAM TEC2 & TDA	TEC2-12	1'39.795
33	85	平子 剛志	クルーズレーシングチーム	NSF250R	1'39.818
34	54	田尻 克行	Club PARIS RSC	NSF250R	1'39.899
35	75	作本 輝介	Club PARIS RSC	NSF250R	1'40.028
36	56	田尻 悠人	Club PARIS RSC	NSF250R	1'40.401
37	39	y 佐野 勝人	SRSJwithMORIWAKI	MD250GP3	1'41.213
38	46	y 岩戸 亮介	Club PARIS RSC	NSF250R	1'41.535
39	45	近藤 真衣	Honda ブルーヘルメットMSC	BH113R	1'41.897
40	50	野澤 秀典	ノザワレーシングF&モト	NSF250R	1'42.065

----- 以上予選通過 -----

※44 藤藤 満 GARAGE.M&GOK GOK250R 1'42.946

参加台数:41台 出走台数:40台

予選通過基準タイム (110%) 1'45.140

※印のNo.44の車両は、国内競技規則第4章付則15-2-10により(決勝)出走を認められた。

(公式予選結果 37位 No.39 リタイヤ)



●予選:天候/晴 路面/ウェット  
●決勝スタート/15:35(20周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	45	長島 哲太	テルル&EM★KoharaRT	TSR2	1'31.179
2	30	DECHA KRAISART	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'31.196
3	634	浦本 修充	MuSASHiRTハルク・プロ	HP6	1'31.285
4	31	野上 健汰	ウエビックチームノリックヤマハ	YZW-N6	1'31.360
5	77	井筒 仁康	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'31.430
6	2	生形 秀之	エスパルストリームレーシング	MFD6	1'31.648
7	37	中本 翔	レーシングチーム Out Run	YZF-R6	1'31.787
8	8	関口 太郎	MSK Team TARO PLUS ONE	YZF-R6	1'31.806
9	51	高橋 英倫	PITCREW&松戸FLASH	MZX-6R	1'31.825
10	7	大木 崇行	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'31.914
11	34	岩田 悟	CLUB PLUSONE	HP6	1'32.078
12	392	津田 一磨	ミクニ テリーアンドカー	GSXR600	1'32.585
13	11	星野 知也	SYNCEEDGE 4413 Racing	CBR600RR HP6	1'33.120
14	60	藤井 謙汰	F.C.C.TSR Honda	TSR2	1'33.381
15	22	佐藤 太紀	TEAM PLUSONE	TSR6	1'33.765
16	16	中村 豊	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'34.806
17	47	小口 亘	ALLMAN&OWRACING	YZF-OWR6	1'35.196
18	52	HANGDAE CHO	PITCREW&TOWWHEEL KOREA	MZX-6R	1'35.590
19	15	小口 理	ALLMAN&OWRACING	YZF-R6	1'35.966
20	79	朝比奈 正	アサヒレーシング	Z600	1'36.479
21	102	阿部 徹郎	あべスピ・ヤマハ&ガレージL8	YZF-R6	1'37.237
22	13	赤岡 清	CLUB HARC-PRO	HP6	1'37.531

----- 以上予選通過 -----

参加台数:22台 出走台数:22台

予選通過基準タイム (110%) 1'40.297

INFORMATION



今年も全日本ロードレース完全無料放送!!

2013年シーズンも全日本ロードレース選手権はシリーズ全戦をレース開催8日後に「BS12 TwellIV(トゥエルビ)」で完全無料放送されます。現場ではカバーできなかったシーンや迫力のバトルをあらためてお楽しみください!!

■放映スケジュール

第6戦SUGO100miles 9月2日(月) 20:00~20:54

ますます充実するインターネット動画!!



コース監視カメラの映像と実況アナの音声で予選・決勝をライブ配信! スマホにも対応しています。



YouTube「MFJ SUPERBIKE オフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!



TV収録用高画質映像を決勝レース終了後約1時間後に配信!

詳しくはファンサイトで → <http://superbike.jp/>